

## 茶色の横じま模様

好評の連載シリーズ、半年ぶりの再登場です。今回、山口敦子先生にご紹介いただくのはテンジクダイです。

「テンジクダイは、最大でも全長10cm程の小さな魚で、日本各地の沿岸、南シナ海から西部太平洋に生息しています。浅海域に生息するネブツダイなど、テンジクダイ科の多くが赤色をはじめとした色鮮やかな魚です。これらの仲間を総称して Cardinal (枢機卿) fish と呼ぶのも、枢機卿が赤色の服を身にまとうことにちなんだもの。しかし、深い沿岸の内湾域に生息するテンジクダイは少し違います。「グラバー図譜」では、透明感のある白色の体と十本の茶色い横じま模様の上にわずかに虹色の輝きが重なり、気品のある姿が表現されています」。

え？ 縦じまに見えますよ。「魚で言うところのしま模様は、頭を上、尾を下にして見ます。それでテンジクダイの模様は横じまとなるわけです」。

なるほど！ 勉強になります。「テンジクダイ属を表す属名 Apogon は、ギリシャ語で『否定』と pogn (ひげ) とが組み合わさったもので、『ひげがない』ことを意

## 雄の子育てに 隠された秘密

「テンジクダイは子育てをする魚です。雄と雌がペアとなり産卵、受精を行った後、雄はすぐさま雌が産み出している卵塊を口の中に受け取ります。それからしばらくの間、雄は餌も食わずにひたすら卵塊を守るのです。口内保育を始めてから約一週間後、口を大きく開けて孵化した仔魚をいっせいに大海原へと送り出すと、しばしの回復期を経て再び繁殖、夏の間はこうして単独での育児に励みます」。

「しかし、そこには秘密があるんですよ。可愛いはずのわが子を食べすぎてしまうことがあるのです。雄が痩せ細りながらも行う子育ては大変なもの。そのため、雌が産んだ卵塊が期待に添わず小さいときには、それを食べてしまい、もっと大きな卵を産んでくれそうな新しい雌を探すのです。だから雌にとっては、出来るだけ大きな卵塊を産んだ方が有利です。私たちは、テンジクダイが近縁の仲間と比べて大きな卵塊を産むことを明らかにしました。しかし、そこには更なる秘密があったのです。東京湾

味します。なぜわざわざ顎ひげがないことにちなんだ名前が付けられたのでしょうか。一七五八年、生物分類の体系化を行ったことで知られる博物学者のリンネが、ヒメジ科の一種として記載した魚は、実際にヒメジの仲間ではありませんでした。ヒメジの仲間は長い顎ひげを持つのが特徴ですが、その魚にはひげはありませんでした。そこで一八〇一年に、フランスの博物学者ラセペードは「ひげがない」との意味を込めた新たな属 Apogon を提唱したのです」。

「長崎県では大村湾や有明海といった内湾で底曳網により漁獲されているものの、あまり利用されていません。しかし、大阪泉南地方や岡山、広島などでは「ねぶと(めぶと)」、加えて香川では、大きな耳石を指す「石持ち」といった地方名があり、郷土の味のひとつとなっています。耳石の入った頭部を取り除き、唐揚げ、天ぷら、すり身揚げなどで美味しく食べられます。学校給食でも地域限定の「ねぶとのから揚げ」が提供されています」。

## 骨ごと食べられる

## 瀬戸内の郷土料理

で漁船に乗せてもらっていた学生時代のこと、口内保育中のテンジクダイの卵の色がおかしいことに気づきました。その後の研究で、テンジクダイの雌がタミーの卵を産生していることが分かったのです。雄に食べられないように、雌は偽の卵をいくらか混ぜた大きな卵塊を雄の口にくわえさせ、雄を子育てモードへと導くわけです。顕微鏡で見ると、卵の大きさはほぼ同じくらいなのですが、黄色い卵黄で占められている本物の卵とは対照的に、無色透明なタミー卵には水分以外に何も入っていないことがはっきりわかりました。タミー卵を産む魚がいることは、それまでまったく知られていなかったのです。その発見に驚き、生命の神秘に感動した瞬間でした。すごい！新発見だ！海の生物にはまだ多くの秘密が隠されているんですね。

で漁船に乗せてもらっていた学生時代のこと、口内保育中のテンジクダイの卵の色がおかしいことに気づきました。その後の研究で、テンジクダイの雌がタミーの卵を産生していることが分かったのです。雄に食べられないように、雌は偽の卵をいくらか混ぜた大きな卵塊を雄の口にくわえさせ、雄を子育てモードへと導くわけです。顕微鏡で見ると、卵の大きさはほぼ同じくらいなのですが、黄色い卵黄で占められている本物の卵とは対照的に、無色透明なタミー卵には水分以外に何も入っていないことがはっきりわかりました。タミー卵を産む魚がいることは、それまでまったく知られていなかったのです。その発見に驚き、生命の神秘に感動した瞬間でした。すごい！新発見だ！海の生物にはまだ多くの秘密が隠されているんですね。



解説 山口敦子  
長崎大学水産・環境科学総合研究科教授  
Yamaguchi Atsuko  
東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了。2000年から長崎大学。専門はエイやサメなど魚類学と水産資源学の研究。主な著書に『干潟の海に生きる魚たち—有明海の豊かさの危機』(東海大学出版)など。

# Glover Atlas テンジクダイ

Apogon lineatus  
画家 萩原魚仙

グラバー図譜  
日本西部及び南部魚類図譜  
Fishes of Southern  
& Western Japan